

研修会等参加報告書

令和元年12月9日

天童市議会議長様

会派名 てんどう創生の会
代表者氏名 渡辺 博司 

下記により、会派において研修会等に参加してきましたので報告します。

記

研修会等名	知らなきや損する議会制度～議員報酬・定数・質問～
主催団体名	(株) 地方議会総合研究所
日 時	令和元年11月19日(火) 10:00～17:00
会場・場所	メルパルク京都 京都府京都市下京区東塩小路町676-13
全体参加者数	約80人
内 容 等	<p>山梨学院大学教授である江藤俊昭氏から、議員報酬、議員定数、一般質問の在り方について説明を受けた。 主な内容は、次のとおりである。</p> <p>○議会力をアップさせる議員報酬、定数、政務活動費</p> <ol style="list-style-type: none">1. 地方政治の負の連鎖と正の連鎖の可能性2. 基本的視点：7つの原則をまず確認しよう3. 議員報酬の考え方：原価方式4. 定数の考え方：討議できる人数5. 政務活動費の考え方：成果指標6. 住民と考える意味7. 条件整備+2

	<p>○議会運営における質問の在り方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 質問の議会運営における位置 2. 議会改革の到達点を踏まえた質問とは 3. 質問の役割 4. 質問の空間時間：実現を相対化する 5. 質問作成の作法 6. 質問を「議会からの政策サイクル」と連動させる 7. 質問作成の道具 8. 選挙との連動と縮小社会への対応 				
市政の課題への参考等	議員報酬、議員定数、一般質問の在り方などについて理解を深めることができた。今後の議会改革に活かして行きたい。				
参加者感想等	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left; padding: 5px;">参加議員氏名</th> <th style="text-align: center; padding: 5px;">感 想 等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top; padding: 10px;">三宅 和広</td> <td> <p>「地方政治の負の連鎖と正の連鎖の可能性」ということが特に印象に残った。その概要は次のとおりである。</p> <p>少子高齢化や人口減少といった課題が山積する一方、財政的には選択と集中が求められている。こうした状況の中で、議会は解決が困難な課題に直面し責任がますます重くなる。しかし、閉鎖的で議論もなく追認機関化している従来の議会では対応できない状況に陥ってしまう。また、住民は身近な課題を議会や首長にぶつけるが、従来の議会運営ではそれに応えられない。そもそも議会運営が見えない。課題に応えられない議会ならば、その設置の意義が失われ、議員定数や報酬の削減要求に結びつく。これが「負の連鎖」である。</p> <p>こうならないために「正の連鎖の可能性」を作り出していくしかなければならない。議会は議決責任を自覚し、新たな課題の解決に果敢に挑戦するために新たな議会を創り出す。そのための条件（議員定数・報酬等）を整備する必要を住民とともに議論する。これにより議会の見える化の推進、住民との意見交換など住民と歩む議会となり、住民は住民の福祉向上のために活動する議会・議員を知ることになる。住民は問題はありながらも議会が住民に寄り添おうということを実感する。</p> <p>天童市議会は「負の連鎖」に陥ることなく、「正の連鎖」でうまく回していくかなければならないと強く感じた。</p> </td></tr> </tbody> </table>	参加議員氏名	感 想 等	三宅 和広	<p>「地方政治の負の連鎖と正の連鎖の可能性」ということが特に印象に残った。その概要は次のとおりである。</p> <p>少子高齢化や人口減少といった課題が山積する一方、財政的には選択と集中が求められている。こうした状況の中で、議会は解決が困難な課題に直面し責任がますます重くなる。しかし、閉鎖的で議論もなく追認機関化している従来の議会では対応できない状況に陥ってしまう。また、住民は身近な課題を議会や首長にぶつけるが、従来の議会運営ではそれに応えられない。そもそも議会運営が見えない。課題に応えられない議会ならば、その設置の意義が失われ、議員定数や報酬の削減要求に結びつく。これが「負の連鎖」である。</p> <p>こうならないために「正の連鎖の可能性」を作り出していくしかなければならない。議会は議決責任を自覚し、新たな課題の解決に果敢に挑戦するために新たな議会を創り出す。そのための条件（議員定数・報酬等）を整備する必要を住民とともに議論する。これにより議会の見える化の推進、住民との意見交換など住民と歩む議会となり、住民は住民の福祉向上のために活動する議会・議員を知ることになる。住民は問題はありながらも議会が住民に寄り添おうということを実感する。</p> <p>天童市議会は「負の連鎖」に陥ることなく、「正の連鎖」でうまく回していくかなければならないと強く感じた。</p>
参加議員氏名	感 想 等				
三宅 和広	<p>「地方政治の負の連鎖と正の連鎖の可能性」ということが特に印象に残った。その概要は次のとおりである。</p> <p>少子高齢化や人口減少といった課題が山積する一方、財政的には選択と集中が求められている。こうした状況の中で、議会は解決が困難な課題に直面し責任がますます重くなる。しかし、閉鎖的で議論もなく追認機関化している従来の議会では対応できない状況に陥ってしまう。また、住民は身近な課題を議会や首長にぶつけるが、従来の議会運営ではそれに応えられない。そもそも議会運営が見えない。課題に応えられない議会ならば、その設置の意義が失われ、議員定数や報酬の削減要求に結びつく。これが「負の連鎖」である。</p> <p>こうならないために「正の連鎖の可能性」を作り出していくしかなければならない。議会は議決責任を自覚し、新たな課題の解決に果敢に挑戦するために新たな議会を創り出す。そのための条件（議員定数・報酬等）を整備する必要を住民とともに議論する。これにより議会の見える化の推進、住民との意見交換など住民と歩む議会となり、住民は住民の福祉向上のために活動する議会・議員を知ることになる。住民は問題はありながらも議会が住民に寄り添おうということを実感する。</p> <p>天童市議会は「負の連鎖」に陥ることなく、「正の連鎖」でうまく回していくかなければならないと強く感じた。</p>				